申請者：佐々木 百合

論文題目　国際通貨としての円
—円の国際化とその影響—

審査員　小川　英治
三隅　隆司
長岡　貞男

1. 本論文は、国際通貨の理論を応用しながら、国際通貨（特に、インボイス・カンレシー）としての円の利用に関する実証分析を行なうとともに、円の未利用に関連して、東アジア諸国の通貨当局によるドル重視の為替政策が通貨危機とどれほど関連したかを実証分析している。これによって、円の国際化を阻んでいる要因を明らかにすると共に、東アジア諸国で貿易収支を安定させるための最適な為替政策が運営されるためには円の比重が高まることが必要であることを明らかにした。

2. 本論文の評価すべき点として、以下の2点が挙げられる。第一に、円の国際化という重要な現実問題について、新たな実証分析結果を示している。すなわち、外国為替取引の媒介通貨となる条件を国際通貨の理論を応用することによって理論的に分析すると共に、実証分析によってその決定要因についてのいくつか仮説（例えば、輸入原材料がドル建てであれば輸出製品価格がドル建てとなる等）を検証し、これらの要因によって、円がインボイスカレンシーとしての利用度が低いことを立証した。第二に、円の国際化のメリットの1つは東アジア諸国の最適な為替政策の運営に貢献することであるという視点から、アジア通貨危機発生までの為替政策が貿易収支面と資本移動面に対して及ぼした影響を回帰分析した上で、円の比重を高めた為替政策を行なった場合に貿易収支や資本移動に対する影響をシミュレーション分析し、円の比重を高めた為替政策が望ましいことを立証した。

3. 本論文の残された課題として、以下の2点が挙げられる。第一に、本論文で円の国際化を阻む要因が明らかにされたものの、その障害を除くことの経済厚生への影響、そしてそのための政策提言はなお検討の余地があり、本論文における政策提言は未だ評価される水準に至っていない。第二に、本論文では、国際通貨の媒介通貨機能や表示通貨機能のみが取り扱われていて、価値貯蔵機能が取り扱われていないことが指摘できる。価値貯蔵機能を含めて国際通貨の諸機能を総合的に分析することによって、ある地域経済における国際通貨の交替というダイナミズムの視点から、円の国際化を再検討することが今後の課題である。なお、筆者は現在これらの研究課題に取り組んでいるところである。今後の研究過程において、実証面に加えて理論面や政策提言等に関しても、筆者独自の回答を期待したい。

4. 本論文は以上のような課題を残しているものの、円の国際化について理論的・実証的に分析して、円の国際化を阻んでいる要因や東アジア諸国の為替政策に関連した円の役割を明らかにした点、さらに、本論文を構成する諸論文がすでに外部の学術雑誌に掲載されている点を考慮すると、本論文は、国際通貨、とりわけ円の国際化に関する研究分野において貢献したと評価できる。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第4条第1項の規程に準じた取扱により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。